

□新規 □継続 ■継続【一部新規】

要 望 事 項	国内の観光需要喚起対策について
---------	-----------------

要 望 先	国	
	県	観光国際戦略局観光企画課、誘客交流課

要 望 内 容	○ 国内の観光需要喚起対策について
---------	-------------------

現 状 と 課 題 ・ 具 体 的 内 容 ・ 効 果 等	<p>【現状と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年から続く新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、観光業界を取り巻く環境は非常に厳しく、観光関連事業者は極めて深刻な影響を受けています。 ○ 今後の観光においては、いわゆる「アフターコロナ」「ウィズコロナ」という社会の中で、旅行形態や観光のあり方も大きく変わることが想定されます。そのような状況の中で、令和2年4月1日に、中南・西北エリアの14市町村をマネジメントエリアとする地域連携DMO「一般社団法人Clan PEONY津軽」が設立されたことを契機に、地域間のつながりをより一層強固なものとするため、同法人との密接な連携体制を構築し、広域観光に関する取組への積極的な参画、多様化する観光ニーズを捉えるための情報収集やマーケティングの実施及び観光コンテンツのブラッシュアップや人材育成など、持続可能な観光地域づくりに、津軽圏域が一丸となって取り組んでいます。 ○ 冷え込んでいる観光需要喚起のため、移動距離が少なく新型コロナウイルス感染症の感染リスクが比較的低いとされるマイクロツーリズムをDMO圏域内あるいは県内、近隣県等の範囲で進めていく必要があります。
	<div style="text-align: center;">  <p>一般社団法人 Clan PEONY 津軽</p> </div> <p>【具体的内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 青森県を代表する観光エリアとして県内観光を紹介する際には十和田エリアなどと同様に、DMO圏域を津軽エリアと位置付け、旅行エージェントやメディア等に対する積極的な情報発信を継続して行っていただくようお願いいたします。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ青森県内の旅行需要の回復と、今後の観光戦略による強力な反転攻勢に向け、情報発信やプロモーション活動を継続的かつ効果的に行っていただくようお願いいたします。 ○ また、津軽エリアへのマイクロツーリズムの積極的な誘客に取り組めるよう、民間あるいは市町村へのマイクロツーリズムをはじめとする観光に特化した新規事業等の創設をお願いいたします。 例：広域で使える観光クーポン、プレミアム商品券等 ○ 令和2年度に県において実施した「あおもり宿泊キャンペーン」についても広域での観光需要喚起の観点から実施をお願いするとともに、実施に当たっては、市町村との連携の上、更なる利用促進へとつながるように事業を展開していただくようお願いいたします。 <p>【効果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 旅行需要が喚起されることにより津軽エリアのみならず、県内全域への観光による交流人口増加や地域経済の振興が図られます。 ○ 社会の変化に対応しながら、新型コロナウイルス感染症の収束レベルに応じた観光需要の喚起が図られます。 ○ 津軽エリアの観光資源としての価値向上により、青森県内の他の魅力的な観光エリアと合わせ、多様化が進む観光需要に对应していくことができます。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">現在までの主な経過・参考事項</p>	<p><主な経過></p> <p>令和2年5月 弘前市において「弘前市宿泊施設受入体制整備費補助金」を新設し、受入環境向上の取組を開始</p> <p>令和2年6月 弘前市において新型コロナウイルス感染症収束後を見据えた新たな観光戦略の検討を開始(弘前市アフターコロナ観光戦略再構築事業)</p> <p>令和2年7月 弘前市において北東北3県向けの「食べて泊まって弘前応援キャンペーン」を実施し、県内観光を喚起(令和3年6月末まで実施)</p> <p>令和2年7月 黒石市において「宿泊・日帰り入浴どっちも応援事業」により、宿泊者に対して黒石限定マッコを贈呈する宿泊・物販応援事業を実施</p> <p>令和2年8月 弘前圏域定住自立圏8市町村と津軽広域連合による津軽でつながる広域応援プロジェクト「エール津軽!!」実施</p> <p>令和2年8月 平川市による北東北三県を対象とした「元気ひらかわ!旅行券事業」実施</p> <p>西目屋村による旅行会社及び西目屋村内宿泊事業者を対象とした「西目屋村観光施設誘客促進事業」実施</p> <p>令和3年1月～3月 黒石市によるマイクロツーリズムを意識した「心に響く広告戦略推進事業」において県内民放3社でのCM放送及び県内と東北の地方紙計7紙への全面広告を実施</p> <p>令和3年5月 弘前圏域定住自立圏観光推進協議会総会において圏域内の広域観光振興及び周遊の促進に向けた事業の実施を議決 ※弘前市、藤崎町、大鰐町において当該協議会負担金に「青森県元気な地域づくり支援事業費補助金」を活用</p>

担当部課：弘前市 観光部国際広域観光課
観光部観光課

県の処理方針（観光国際戦略局 観光企画課・誘客交流課）

<p>経緯</p>	<p>(旅行エージェントに対する積極的な情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度においては例年通りのセールス活動が展開できなかったものの、東京、大阪、名古屋及び福岡といった4エリア、延べ25社を訪問の上、積極的な情報発信に努めてきました。 ○ また、感染症の影響により、これまで実施してきたような大規模な商談会等の実施が難しくなったものの、令和2年10月には参集範囲を旅行エージェント等の役員16名に限定した上で「あおもり観光スタートアップセッション」を実施し、ビヨンドコロナにおける観光振興に係る意見交換を行いました。 <p>(反転攻勢に向けた情報発信やプロモーション活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アフターコロナ後の観光需要喚起に向けて、令和2年度には、感染症の影響により閉鎖された弘前公園の桜をドローンで動画撮影したほか、令和3年度は岩木山のオオヤマザクラ、津軽岩木スカイラインでの自転車レースなども撮影し、県のSNSで情報発信しました。 ○ また、オンライン認証画面を模して、読者にりんごの品種を選択してもらうSNS記事が、首都圏のマスメディアにも大きく取り上げられ、本県に対する興味関心の向上につながりました。 ○ さらには、健康志向の高まりから、発酵や旨味といった日本独自の調理方法が世界から注目されている中、津軽の伝承料理を提供している「あかつきの会」に関して、料理専門誌による特集記事の掲載や、レシピ本の全国発売に関する協力も積極的に行っています。 <p>(マイクロツーリズムの推進及び広域での観光需要喚起)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度には、県内又は北東北3県の居住者を対象に、宿泊施設の宿泊プランから1人泊当たり5,500円を割り引く「あおもり宿泊キャンペーン」を実施し目標の14万人泊を大きく上回る187,712人泊の利用があったところです。 ○ また、令和3年7月18日からは、県内居住者を対象として、1人1泊当たり最大で5,000円の宿泊代金を割り引くほか、1人1泊当たり2,000円分のクーポン券を付与する「青森県おでかけキャンペーン」を実施し、中南地域においては71の宿泊施設に参加いただいているところです。 ○ その他、弘前れんが倉庫美術館を中心とした周遊観光を促進する「アートツーリズム」にも、関係市町村と連携しながら取り組んでいるところです。
<p>処理方針</p>	<p>(旅行エージェントに対する積極的な情報発信の継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、当面の間は全国的な需要拡大が見込めないことから、まずは県内からの誘客に取り組むこととしておりますが、県民を対象とした「青森県おでかけキャンペーン」といった県内からの誘客についても、県内旅行エージェントと連携の上、取り組んでいるところです。 ○ 今後、全国的に感染状況が落ち着いた際には、本県観光需要の早期回復を図るために、誘客対策を積極的に展開していく必要があることから、これまでも実施してきた各エリアの旅行エージェントへのセールス活動により、津軽エリアの旅行商品造成を働きかけることとしています。 <p>(反転攻勢に向けた情報発信やプロモーション活動の継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き、首都圏のマスメディアに対する情報提供やWeb・SNSを活用した情報発信を行っていくほか、市町村や観光事業者等と連携を図りながら、魅力的な観光コンテンツの開発にも取り組んでいきます。

(マイクロツーリズム関連の新規事業等の創設)

- 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、いわゆるマイクロツーリズムが注目されるようになってきていることから、今年度は、県民を対象とした「青森県おでかけキャンペーン」の実施に併せて、スタンプラリーも初めて実施するなど、県民に県内各地域の魅力を再発見していただくための取組を、引き続き、実施していくこととしています。
- 今後についても、マイクロツーリズムを継続・拡大させるため、現在、宿泊事業者等と連携した誘客対策の事業構築を検討しているところです。

(「あおもり宿泊キャンペーン」の実施と市町村連携)

- 今年度実施した「青森県おでかけキャンペーン」については、その内容について、全市町村に対して事前に情報共有させていただいたほか、市町村が独自に実施する宿泊キャンペーンとの併用も可とするなど、相乗効果が図られるよう取り組み、10月19日までに約11万4千人泊分もの御予約をいただくなど大変好調に推移しています。今後も引き続き、各市町村及び市長会・町村会が独自に実施する取組等との連携を図りながら、誘客促進に取り組んでいくこととしています。